

## 令和2年度 1歳児 うさぎ組だより

緊急事態宣言が発令され、今回も書面での共育ちの会となってしまいました。保護者の皆様にナーサリールームでうさぎ組は、どのように過ごしていたかをお伝えさせていただきます。どんなことに興味を持ってやってみたいと思ったのか、やってみてどんなことができるようになったのか、食事・着脱・排泄・散歩・遊びの視点からの成長の姿です。

### 食事 みんなと たのしい おいしい

手づかみ食べから、食具を使って食べるようになりました。スプーンで食べている子に保育者が「すごいね」と声を掛けると、「せんせいみて！」と自分もできる、と同じように食べています。できることを認めてもらいたい気持ちを丁寧に受け止めて、自信に繋げています。いままであまり食べなかった野菜等の食材も、お友だちと一緒にだと楽しく食べる姿も見られます。



お皿に手を添えて  
食べます



靴や靴下を自分で  
脱いで、しまします



### 着脱 ジブンデ！できた！

洋服の着脱を自分でするときは「できないやって」と甘えることもあります。でもお友だちと一緒にだと、「〇〇ちゃんのほうがはやいよ！」と競い合うようにして、お互いに「いちばん！」と笑顔を見せてくれます。シャツの肩や靴下のかかとなど引っかかって難しいところは、さりげなく手助けして、できたことで達成感を感じられるようにしています。

自分でできる経験を増やすためにも洋服の素材やサイズは大切ですので、着脱しやすいを意識してご用意ください。

### 排泄 すわってみようかな…

トイレでの排泄は、一人ひとりの発達に合わせ、2歳になったから、3歳になるからではなく、その子なりのスタート時期があります。膀胱がある程度大きくなり、神経が発達して尿意を感じられるようになり、言葉のある程度理解してコミュニケーションがとれるようになる必要があります。またおしっここの感覚が1時間半～2時間くらいあくようになったら、膀胱に無意識ながらも溜められる状態になっているので、トイレに座ろうと誘っています。ナーサリールームではまず、午睡明けに紙おむつが濡れていない場合に、トイレに座っています。

布パンツへのステップアップは、ご家庭と相談してスタート時期を決めていきたいと思えます。